

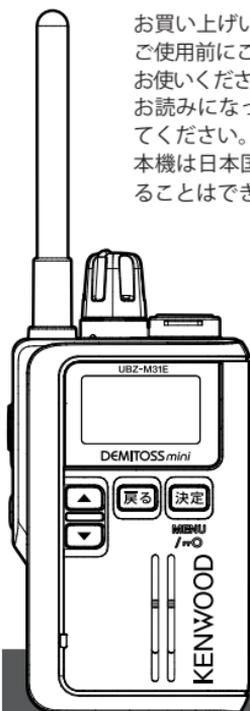
KENWOOD

UBZ-M31E UBZ-M51SE UBZ-M51LE

特定小電力トランシーバー

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく
お使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管し
てください。
本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用する
ことはできません。



DMITOSS mini

株式会社 JVCケンウッド

B5A-3871-00 (J)



目次

安全上のご注意	4
---------------	---

ご使用の前に

使用上のご注意	9
UBZ-M51E と UBZ-M31E の違いについて	9
運用モードについて	10
本機の付属品	11
電池について	11
ベルトフックを取り付ける	13
電池を入れる	14
ストラップを取り付ける	14
オプション機器を接続する	15
オプションエラー警告	15

各部の名称と機能

各キーの機能説明	16
表示部のアイコン説明	17

操作のしかた

基本通信操作	19
通信時間の制限	20
キーロック	21
グループ番号設定	22
基本メニュー	24
基本メニューの操作	24
ビープ音	26
VOX 機能 (ハンズフリー)	26
PTT ホールド	28
PTT ホールド自動復帰	29
コールトーン 1/ コールトーン 2 送信	30
スケルチレベル	31
バッテリーセーブ	32
チャンネル非表示	33
バックライト動作	34
通話告知音	34
イヤホンモード	36

拡張メニュー (ファンクション)	37
ファンクションメニュー (FnC) の操作	37
運用モードの設定	39
中継器アクセスモード (セミデュプレックス)	40
バッテリー種別	41
オートパワーオフ	42
オートチャンネルセレクト	43
送信禁止	44
キーロック長押し時間	45
送信パワー	45
チャンネル番号切り替え	46
送信お知らせ音	47
簡易スキャン (UBZ-M51LE/M51SEのみ)	49
拡張メニュー (キー)	51
キーマニュー (KEy) : 本体 PF キーの設定操作	51
キーマニュー (KEy) : オプションキーの設定操作	52
モニター	54
音量アッテネート	55
コールトーン 3 送信	55
エマージェンシー操作 (UBZ-M51LE/M51SEのみ)	56
バックグラウンドトーン (UBZ-M51LE/M51SEのみ)	57
セカンド PTT チャンネル送受信 (UBZ-M51LE/M51SEのみ)	58

その他

オプション一覧	61
故障かな?と思ったら	62
リセット	65
保証とアフターサービス (よくお読みください)	66
仕様	67

説明上の注釈表記について



このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。



このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容(表示と意味)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみが発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	禁止(してはいけないこと)を示す記号です。
	分解してはいけないことを示す記号です。
	水が掛かる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



危険

使用環境・条件



引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリンなどの可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。



運転しながら無線機を操作(通信)するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作(通信)してください。

充電電池 (バッテリーパック) の取り扱いについて

充電電池は下記のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

-  充電電池を電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高压容器に入れたりしないでください。
-  充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。
-  指定以外の充電器では充電しないでください。
-  無線機以外の機器に取り付けしないでください。
-  火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解したりしないでください。
-  濡れた無線機と電池を充電しないでください。火災や感電の原因となります。
-  端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

充電電池から内部の液体などが漏れている場合は、直ちに使用をやめて、下記のことをお守りください。

-  充電電池内部の液体が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
-  充電電池内部の液体が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

警告

使用方法について

-  エアバック装置の近くに無線機を置かないでください。エアバック装置が動作したときなど装置が体に当たってけがをすることがあります。
-  機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカーマイクロホンなどのケーブルを首にかけないでください。けがの原因となります。

安全上のご注意

-  無線機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・やけど・感電・故障の原因となります。
-  アンテナやストラップを持って、無線機を振り回さないでください。人に当たってけがを負わせたり、物に当たって装置が破損したりすることがあります。
-  アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。
-  ネックストラップを使用している場合、ネックストラップがドアや機械等に挟まれないように注意してください。けがの原因となります。
-  高温になる場所(火のそば、暖房機のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。火災、やけど、けがの原因となります。
-  直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色し、火災の原因となることがあります。
-  ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
-  調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・やけど・感電・故障の原因となることがあります。
-  本機の付属品や、本機から取り外したものを幼児、子供の手の届くところに置かないでください。あやまって飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
-  無線機は分解・改造して使用しないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

異常時の処置について

-  落下などにより破損した部品には直接触らないでください。けがの原因となります。
-  内部に水や異物が入った場合や、落としたり、ケースを破損したりした場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがしたりするなどの異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・やけど・感電・故障の原因となります。



煙が出たら、やけどに注意してすぐに電源を切り、電池を外し、充電中は電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。



注意

使用環境・条件



電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。



空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認したうえでご使用ください。



本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。



オプション機器は指定された製品以外を使用しないでください。指定機器以外を使用すると誤動作や故障の原因になります。



テレビやラジオ、パソコンの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。



結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。



マイクの開口部やスピーカーグリルに水が入ると、音声レベルが不安定になったり歪んだりすることがあります。無線機を操作する前に、無線機を軽く振って、スピーカーやマイクから水を取り除いてください。

使用方法について



ベルトフックに指をはさまないようにご注意ください。



スピーカー／マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。



お手入れの際や、長期間使わないときは、安全のため電源を切り、電池を外してください。



雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源を切り、充電中は電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

安全上のご注意

! スピーカー・マイクロホンなどを無線機に接続している場合は、音量を下げてください。モニター機能を使用するときの音量に注意してください。

! 乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用したときに静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカー・マイクロホンをご使用ください。

! イヤホンを使用するときは、電源を入れる前に音量を下げてください。聴覚障害の原因となることがあります。

! 充電端子などに水滴が付いたら、安全のため乾いた布で拭き取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジン、アルコールは使用しないでください。

! 無線機は、充電動作中にバッテリーパックの温度が高くなる場合があります。バッテリーパックを交換するときは、十分気を付けて取り外してください。

! ◆ 充電器など別売りの外部機器使用時の注意については使用する機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

防塵 / 防水性能について

本製品は設計段階において該当する防塵 / 防水性能の社内試験をおこないその性能を確認しておりますが、実際の使用においては下記の条件や注意事項をお守りください。

- 防水保護 IP67 相当の防塵 / 防水性能を備えていますが、実際のご使用にあたって、すべての状況で防塵 / 防水を保証するものではありません。

UBZ-M51LE/M51SEのみ

- ナット付きのオプションを使用する場合は、プラグを確実に取り付けてからナットで固定してください。また、取り付ける際には、微細なゴミ（微細な繊維、髪の毛、砂など）をはさんでいないか、ご確認ください。
- 石鹸水、洗剤、調味料、ジュース、海水、油など水道水以外のものをかけたり、浸けたりしないでください。また、高温のお湯や冷水に浸けたり、かけたりしないでください。
- 本機が濡れているときは防水カバーを開けないでください。
- オプションを接続するときはプラグを確実に固定してください。
- オプション自体の防塵 / 防水性能は各オプション製品により異なります。
- 充電台や AC アダプターは防水仕様ではありません。本機が濡れている状態では使用しないでください。
- 本機に衝撃を与えた場合は、防塵 / 防水性能に影響を与える場合があります。

ご使用の前に

使用上のご注意

- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、めやすは下記のとおりです。
建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
 - ◆ 市街地：100～200 m
 - ◆ 見通しのよい場所：1～2 km
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。

電波法に関するご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証を取得した、特定小電力トランシーバーです。本機裏面の技術基準適合証明ラベルをはがして使用することは、電波法により禁止されています。
- 本機を分解したり、改造したりして使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用したりすることは電波法により禁止されています。

UBZ-M51E と UBZ-M31E の違いについて

UBZ-M51LE/UBZ-M51SE と UBZ-M31E では主に防塵 / 防水性能、および搭載機能が異なります。また、UBZ-M51LE と UBZ-M51SE では、アンテナの仕様が異なります。

機種名	防塵 / 防水性能	アンテナ	主な特長
UBZ-M51LE	IP54/55 および IP67 相当	ロングアンテナ	・簡易スキャン ・セカンド PTT ・エマージェンシー * 他は UBZ-M31E と同じです。
UBZ-M51SE		標準アンテナ	
UBZ-M31E	IP54/55	標準アンテナ	・送信お知らせ音 ・コールトーン送信 ・チャンネル非表示

ご使用の前に

運用モードについて

本機は2つの運用モードを選択できます。

チャンネル表示について

本機のチャンネル表示は連番表示です。従来機との比較は下表をご覧ください。従来機の表示にすることもできます<「チャンネル番号切り替え」(p.46)>。

■ 交互通話モード(シンプレックス)

直接トランシーバー同士で通話するモードです。20チャンネルに対応し、従来の9チャンネル機と11チャンネル機のどちらも使用できます。

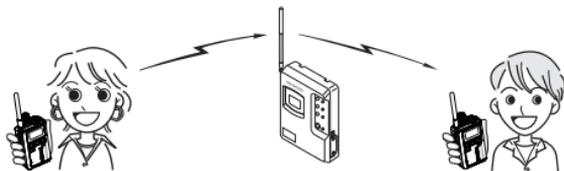


交互通話モード(シンプレックス):20ch

UBZ-M31E/ UBZ-M515E/ UBZ-M51LE	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
弊社従来機	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	h1	h2	h3	h4	h5	h6	h7	h8	h9

■ 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)

別売品の中継器《オプション一覧 p.61》を介して通話するモードです。安定して通話できる範囲が広がります。27チャンネルに対応し、従来の9チャンネルと18チャンネルのどちらも使用できます。



中継器アクセスモード(セミデュプレックス):27ch

UBZ-M31E/ UBZ-M515E/ UBZ-M51LE	1	2	3	4	~	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
弊社従来機	1	2	3	4	~	16	17	18	h1	h2	h3	h4	h5	h6	h7	h8	h9

本機の付属品

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

ベルトフック	1
保証書	1
取扱説明書	1

電池について

電池は下記の種類がご使用いただけます。

- ・ 充電電池 UPB-7N (別売品)
- ・ 単 3 形 enloop
- ・ 単 3 形アルカリ乾電池
- ・ 充電式 EVOLTA

使用する電池の種類設定

使用する電池の種類によって、設定を変えてください。く拡張メニュー設定「バッテリー種別」《☛ p.41》。お買い上げ時の設定は「アルカリ乾電池」です。

電池の使用可能時間のめやす

■アルカリ乾電池使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能《☛ p.32》	
	on(初期値)	ECo
内蔵スピーカー使用時	24 時間	26 時間
外部スピーカー使用時 (イヤホンマイク EMC-13)	27 時間	29 時間

■充電電池 UPB-7N 使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能《☛ p.32》	
	on(初期値)	ECo
内蔵スピーカー使用時	18 時間	21 時間
外部スピーカー使用時 (イヤホンマイク EMC-13)	20 時間	24 時間

※ 測定条件：送信 1：受信 1：待受 8 の使用時(送信出力 10 mW、室温 25℃)

※ enloop(1900 mAh)と充電式 EVOLTA(1950 mAh)の使用可能時間のめやすは、充電電池 UPB-7N 使用時と同等です。

※ 電池の使用可能時間は周囲温度や音量、電池の種類などの使用条件により変動します。

ご使用の前に

電池の残量表示について

電池の残量のめやすを3段階で表示します。

1個点灯になると、警告音が「ピーピーピー」と4回鳴り1分ごとに繰り返します。バッテリー容量が低下していることをお知らせします。早めに電源をOFFにして新しい単3形アルカリ乾電池と交換するか、充電池を充電してください。



バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で数秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作をするとバッテリーセーブは解除されます。

※ バッテリーセーブは各種メニュー/メニュー設定中およびモニター中は動作しません。UBZ-M51LE/M51SEではエマージェンシー中も動作しません。

充電池の特性について

- 充電/放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら充電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電/放電したり、トランシーバーを使用したりすると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- 充電池を高温状態で放置すると使用できなくなります。充電池が冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保存後は、バッテリー容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

電池に関するご注意

電池は、使い方を誤ると破裂や破損、液もれ、故障の原因となります。必ず下記の注意事項を必ずお守りください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 火の中へ投げ込まないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を本機から取り出してください。
- 電池の端子をショートさせないでください。
- 電池を分解しないでください。

使用済み充電電池の取扱注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープなどで絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。



Ni-MH
充電式

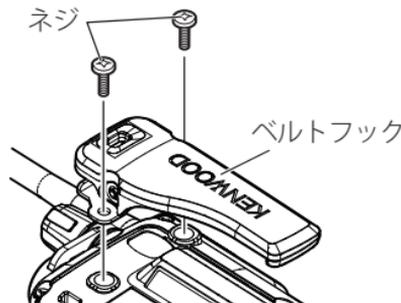
不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。リサイクルにご協力をお願いいたします。

enloopおよび充電式EVOLTAのご使用について

- 充電する際は enloop/ 充電式 EVOLTA の専用の充電器をお使いください。
- ご使用の際は enloop/ 充電式 EVOLTA の取扱説明書をよくお読みください。
- エネループおよび、enloop はパナソニックグループの登録商標です。
- EVOLTA はパナソニック株式会社の登録商標です。
- enloop/ 充電式 EVOLTA の故障や不具合についてはパナソニック株式会社へお問い合わせください。

ベルトフックを取り付ける

ベルトフックと一緒に同梱されている取り付けネジ (M3 × 4mm) を使用して取り付けます。ベルトフックを本体のネジ穴に合わせて、ネジで緩まないようにしっかり取り付けてください。



- ◆ ベルトフックは何度も脱着しないでください。ネジに緩み防止剤が塗布してありますが緩みやすくなります。

ご使用の前に

電池を入れる

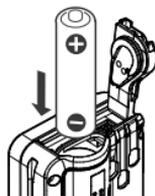
1 電池カバーを開ける

ロック板を矢印の方向にスライドさせて、ロックを解除して電池カバーを開けます。



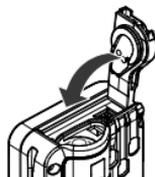
2 電池を入れる

単3形アルカリ乾電池、または充電電池をマイナス側から挿入します。



3 電池カバーを閉める

ロック板を矢印の方向にスライドさせて、ロック板が「カチッ」と音がするまで電池カバーを閉めます。



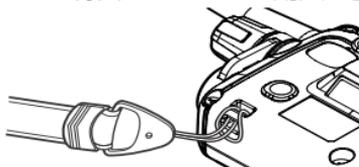
電池を取り出すときは手順2で電池を取り出します。



- ◆ 電池を取り出すときは、電池を落とさないようご注意ください。
- ◆ 電池のプラス(+)とマイナス(-)の向きを間違えて挿入すると、本機は動作しません。また、故障の原因になりますのでご注意ください。

ストラップを取り付ける

別売品のネックストラップSB-4や市販品のストラップを取り付けるときは、トランシーバー背面のストラップ用穴を使用してください。

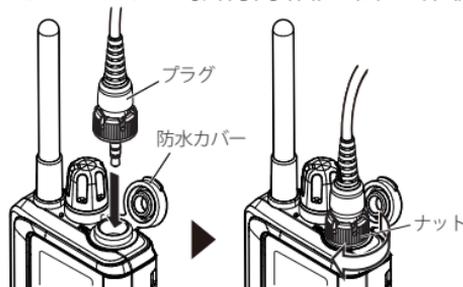


- ◆ ストラップを持って本機を振り回さないでください。故障やけがの原因となります。

オプション機器を接続する

イヤホン/マイクロホンなどを接続します。

防水カバーを開いて、本機の接続端子にオプション機器のプラグを差し込み、プラグのナットを時計方向(右)に回して固定します。



- ❗ ◆ オプション一覧《▶ p.61》に記載している専用품을接続してください。専用品以外を接続すると誤動作や故障の原因になります。
- ◆ 使用前に、接続機器の取扱説明書をお読みください。
- ◆ 必ず本機の電源を切った状態で接続してください。
- ◆ プラグを取り外すときは、プラグ部をしっかり持って取り外してください。ケーブルを持って取り外すと、断線の原因になります。

オプションエラー警告

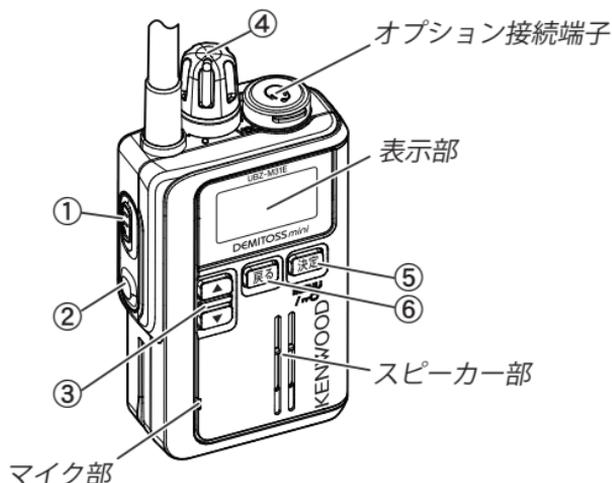
オプション機器のプラグ接続が不完全な場合、接続して約 15 秒が経過すると下記の画面になりエラー音が鳴ります。接続の不具合が解消されたとき、または何かのキーを押すとエラー表示とエラー音が停止します。



- ✎ ◆ 「基本メニュー」の「イヤホンモード」が「on」のときは、オプションエラー警告は機能しません。《▶ p.36》

各部の名称と機能

各キーの機能説明



① 【PTT】送信キー

送信するときに押します。離すと待ち受け状態になります。メニュー表示中に押すと、設定を確定してメニューを終了します。

② 【PF】キー

押すと、拡張メニューの「本体 PF キー設定」で選んだ機能が動作します。お買い上げ時の設定は「Att(音量アッテネート)」です。《☛ p.55 》

③ 【▲】【▼】キー

【▲】：チャンネル番号が上がります。

【▼】：チャンネル番号が下がります。

- オートチャンネルセレクトキー「ACS」が「on」に設定されているときは、【▲】を長く押すとオートチャンネルセレクトを開始します。《☛ p.43》
- 簡易スキャン機能を「on」に設定されているときは、【▼】を長く押すと簡易スキャンを開始します。《☛ p.49》

UBZ-M51LE/M51SEのみ

④ 【電源/音量】つまみ

電源の ON/OFF、および音量を調節します。

⑤ 【決定】キー

- 押すとグループ番号設定を表示します。《☛ p.22》
- 押しながら電源を入れると、基本メニューを表示します。《☛ p.24》
- 押し続けるとキーロック機能が働きます。《☛ p.21》

⑥ 【戻る】キー

各種メニュー画面で押すと、前の画面に戻ります。
長く押すと、設定を確定せずにメニューを終了します。

表示部のアイコン説明



表示	説明	関連ページ
	電池の残量(めやす)を表示します。	12
	受信中表示します。 <受信アイコン>	20
	送信中表示します。 <送信アイコン>	19

各部の名称と機能

表示	説明	関連 ページ
秘	本機では使用しません。	
中継	運用モードが中継器アクセスモード(セミデュプレックス)に設定されているときに表示します。	39
2nd	セカンドPTTチャンネルスキャン中に点灯します。セカンドチャンネルの受信/送信中は点滅します。 UBZ-M51LE/M51SEのみ	58
VOX	VOX 機能(ハンズフリー)が「on」のときに点灯します。	26
	イヤホンモードが「on」のときに表示します。	36
	簡易スキャン中に点灯します。設定した簡易チャンネルでの受信中と送信中は点滅します。 UBZ-M51LE/M51SEのみ	49
L	ローパワー送信機能が働いているときに表示します。	45
	キーロック機能が働いているときに表示します。	21
	次のメニュー項目がある場合に表示します。 【決定】 キーを押すと次の画面に進みます。	--
	【戻る】 キーが有効なときに表示します。 【戻る】 キーを押すと前の画面に戻ります。	--

操作のしかた

基本通信操作

交互通話モード(シンプレックス)で通信する場合の手順です。

- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作は《「運用モードの設定」▶ p.10》をご覧ください。

1 【電源/音量】を時計方向に回して電源を入れる

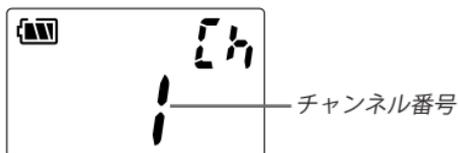
「ピーッ」と鳴って電源が入ります。電源を切るには【電源/音量】を「カチッ」という音がするまで反時計方向に回します。



2 【▲】【▼】を押して通信するチャンネル番号に切り替える

【▲】を押すとチャンネル番号が上がります。

【▼】を押すとチャンネル番号が下がります。



【▲】または【▼】を押し続けると、押し続けている間連続してチャンネル番号が切り替わります。

9チャンネル機と通信する場合

12～20に合わせます。

11チャンネル機と通信する場合

1～11に合わせます。

3 【PTT】を押しながら話す

＜送信アイコン＞が点灯し、送信状態になります。

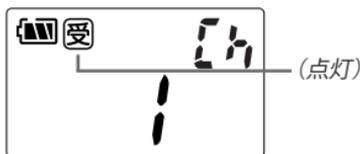


マイク部から口を5cmくらい離してお話してください。

操作のしかた

4 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。受信すると<受信アイコン>が点灯します。



【電源 / 音量】つまみを回し好みの音量に調整してください。

5 手順3と4の操作を繰り返して、通信する

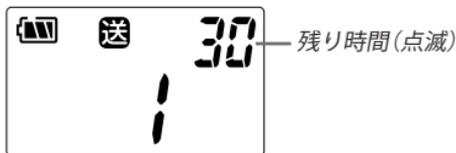
トランシーバーを使用しないときは電源を切ります。



- ◆ 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手の方と共に、他のチャンネル番号に設定してください。
- ◆ 複数のチャンネルを使って通信をする場合、混信を起こす可能性があります。グループ番号を設定して使用することをおすすめします《「グループ番号設定」▶ p.22》。

通信時間の制限

本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通信終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音（プー）と共に送信を停止し、待ち受け状態に戻ります。続けて通信するときには、送信停止2秒後に【PTT】を押して相手呼び出してください。



- 中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で送信パワーをローに設定している場合は、通信時間の制限はありません。《「送信パワー」▶ p.45》

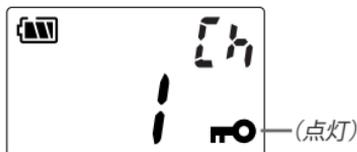
キーロック

間違えてチャンネル番号やグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができます。

キーロックをする

1 【決定】を長く(1秒以上)押す

キーロックが動作します。キーロック中は<決定>が点灯します。



キーロックを解除する

2 【決定】を長く(1秒以上)押す

キーロックが解除され、<決定>が消灯します。

キーロック中でも下記のキー操作はできます。

- 【電源/音量】(電源入る/切る)
- 【▲】+【▼】+【電源ON】(オールリセット)
- 【▼】+【電源ON】(モニター)
- 【PTT】(送信)
- 【PTT】+【▲】(コールトーン2送出)
- 【PTT】+【▼】(コールトーン1送出)
- 【2nd】(送信)
- 【2nd】+【▲】(コールトーン2送出)
- 【2nd】+【▼】(コールトーン1送出)
- 【mon】(モニター)
- 【Ct3】(コールトーン3送出)



- ◆ 【決定】を押す時間を変更することができます。《「キーロック長押し時間」▶ p.45》
- ◆ キーロックに連動して表示を消すこともできます。《「チャンネル非表示」▶ p.33》

グループ番号設定

他のグループが同じチャンネルで通信していると、音声が混ざり合って(混信)通信しづらくなります。仲間同士でグループ番号を設定しておく、混信がなくなって快適に通話ができます。

1 【決定】を押す

グループ番号設定画面が表示され、グループ番号が点滅します。

2 【▲】または【▼】を押す

グループ番号が切り替わります。10秒間何もキーを操作しないと、設定を確定せずにグループ番号設定が終了します。

設定範囲

oFF/1～38

- 【▲】または【▼】を押し続けると、押している間連続してグループ番号が切り替わります。



3 【決定】を押す

設定を確定します。

【PTT】を押すことで設定を確定してグループ番号設定を終了することもできます。



- ◆ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、＜受信アイコン＞が点灯します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。
- ◆ 運用モードを中継器アクセスモード（セミデュプレックス）に設定しているときは、チャンネル番号とグループ番号は中継器の設定と同じにします。
- ◆ チャンネル番号、グループ番号は通話する相手の方と設定を合わせてください。すべての設定が合っていないと通話できません。
- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、＜受信アイコン＞が点滅表示することがあります。

基本メニュー

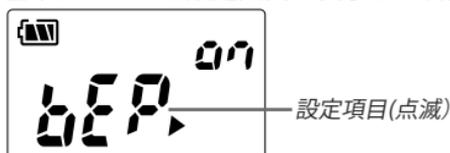
基本メニューを使うと、基本的な機能の設定ができます。操作方法は下記のとおりです。設定できる項目は次ページの設定項目一覧をご覧ください。

基本メニューの操作

1 一度電源を切る

2 【決定】を押しながら電源を入れる

基本メニューの設定画面が表示され、設定項目が点滅します。



3 【▲】または【▼】を押す

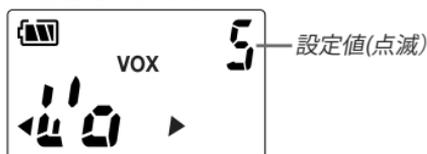
押すごとに設定項目が切り替わります。

4 【決定】を押す

設定項目が確定して、設定値が点滅します。

5 【▲】または【▼】を押す

設定値を選択します。



6 【決定】を押す

設定値が確定して、設定項目選択に切り替わります。

- 【戻る】を長く押すと基本メニューが終了しますが、この場合は設定した項目は確定されません。

7 【PTT】を押す

基本メニューが終了します。

設定項目一覧(基本メニュー)

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
bEP	ビーブ音	oFF/on	on	26
Vo	VOX レベル	oFF/1/2/3/4/5	oFF	27
Vdy ¹	VOX 遅延時間	03/05/10/15/30	05	28
PHd	PTT ホールド	oFF/on	oFF	28
R-t ²	PTT ホールド 自動復帰	oFF/on	oFF	29
Ct1	コールトーン 1 音色	1/2/3/4/5/6/7/8/ 9/10	1	31
Ct2	コールトーン 2 音色	1/2/3/4/5/6/7/8/ 9/10	3	31
SqL	スケルチレベル	oFF/1/2/3	2	31
SAV	バッテリーセーブ	oFF/on/ECo	on	32
C--	チャンネル非表示	oFF/on/LoC	oFF	33
bLt	バックライト動作	oFF/ACt/Any/on	ACt	34
ton	通話告知音	oFF/SdP/ALL	SdP	34
P-R ³	通話告知音動作	P-/R/P-R	P-	35
EAR	イヤホンモード	oFF/on	oFF	36



- ◆ 1 「Vo」が「oFF」の場合、「Vdy」は選択できません。
- ◆ 2 「PHd」が「oFF」の場合、「R-t」は選択できません。
- ◆ 3 「ton」が「oFF」の場合、「P-R」は選択できません。

操作のしかた

ビープ音

キーを操作したときに鳴る確認音をビープ音といいます。この機能を「oFF」に設定すると、ビープ音を鳴らさないようにできます。

1 基本メニュー設定画面で、「bEP」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	ビープ音は鳴りません。
on	ビープ音が鳴ります。



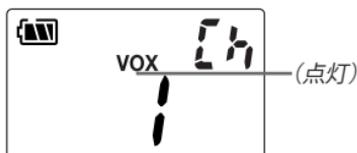
◆ 下記の警告音、予告音などはビープ音を「oFF」に設定しても鳴ります。

- 通信時間制限予告音
- オートパワーオフ警告音
- 送信禁止音
- コールトーン
- レピーターアクセスエラー音
- セカンドチャンネルビープ音
- エマージェンシートーン
- バックグラウンドトーン
- バッテリー減電圧警告音
- 通話告知音
- 送信お知らせ音

VOX機能(ハンズフリー)

【PTT】を押さなくても、VOX 対応オプションのマイクロホンに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で待ち受け状態になります。VOX 機能が ON になると < VOX > が点灯します。

- VOX 送信中に【▲】/【▼】で VOX レベルを変更することもできます（「oFF」にはできません）。



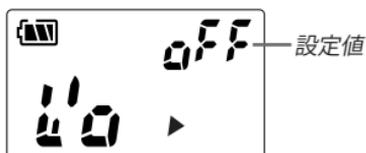
- ◆ VOX 機能 (ハンズフリー) を使用する場合は対応するオプションを使用してください。 (《「オプション一覧」▶ p.61》で< VOX 対応 >と記載されている製品)
- ◆ VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが鳴っているとき、およびスケルチが開いているときは使用できません。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、周囲の音で誤送信することがあります。オプションを接続してください。
- ◆ VOX 送信では話し始めても送信するまで時間が掛かるため、音声の最初が途切れる場合があります。このようなときは、送信開始のみ【PTT】を押しておこなうこともできます。
 - 【PTT】を離しても、VOX 遅延時間《▶ p.28》で設定している時間、送信を継続します。

操作のしかた

VOXレベル

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

1 基本メニュー設定画面で、「Vo」を選択する



2 VOXレベルを選択して【決定】を押す

oFF	VOX 機能は OFF になります。
1 ~ 5	VOX 機能が ON になり、数値が大きいほどマイクロホンの感度が上がります。

操作のしかた

- 1～5に設定しているときは、VOXレベル設定画面とVOX遅延時間設定画面でマイクロホンに向かって話すと、声の大きさが設定レベルに達すると<VOX>が点滅します。VOXレベル設定のためやすにします。(設定画面では送信されません。)



- ◆ 送信禁止《「t-l」 p.44》が「on」のときは、VOX機能は動作しません。

VOX遅延時間

VOX機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめた後、設定した時間は送信を継続するため音声の途切れを防ぐことができます。

- 1 基本メニュー設定画面で、「Vo」を選択して【決定】を押す
- 2 設定値「1」から「5」を選択して【決定】を押す
VOX遅延時間の設定画面が表示されます。
- 3 遅延時間を選択して【決定】を押す
0.3秒(03)から3.0秒(30)の間で設定します。

03/05/10/15/30 数字が大きいほど遅延時間が長くなります。



PTTホールド

通常は送信するときは【PTT】キーを押し続けますが、本機能を「on」に設定すると、【PTT】キーを一度押せば【PTT】キーを離しても送信が継続します。

- 28 送信をやめるときはもう一度【PTT】キーを押します。

1 基本メニュー設定画面で、「PHd」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	【PTT】キーを押し続けると送信状態になり、【PTT】キーを離すと待ち受け状態になります。
on	【PTT】キーを押すと送信状態が継続され、再度【PTT】キーを押すと待ち受け状態になります。



- ◆ ヘッドセットやイヤホン付きクリップマイクロホンを接続しているときに PTT ホールド機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください（《「オプション一覧」p.61》で「VOX 対応」と記載されている製品）。VOX 対応以外のオプションを使用すると、PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。

PTTホールド自動復帰

「PTT ホールド」が「on」に設定されている場合、通信時間の制限により通信が終了しても、送信休止時間(2 秒)後に自動で送信を再開する機能です。

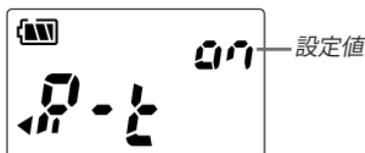
1 基本メニュー設定画面で、「PHd」を選択する

2 設定値「On」を選択して【決定】を押す

PTT ホールド自動復帰の設定画面が表示されます。

3 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	自動で送信は再開しません。
on	自動で送信を再開します。



- ◆ 送信休止時間経過後、使用チャンネルに受信信号がある場合は、送信は再開しません。
- ◆ 送信休止時間の間にキー操作があった場合は、送信は再開しません。
- ◆ 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で自動復帰する場合は、送信休止時間経過後に再度中継器にアクセスをします。
- ◆ PTT ホールド《「PHd」▶ p.28》が「oFF」のときは、PTT ホールド自動復帰は動作しません。

コールトーン1/コールトーン2送信

電話の呼び出し音のような音(コールトーン)を送信することができます。コールトーンは6種類から選択できます。また、4種類のメロディートーンも選択できます。

コールトーン1で送信するとき

- 1** 【PTT】を押したまま【▼】を押す
押し続けている間コールトーン1が送信されます。

コールトーン2で送信するとき

- 2** 【PTT】を押したまま【▲】を押す
押し続けている間コールトーン2が送信されます。



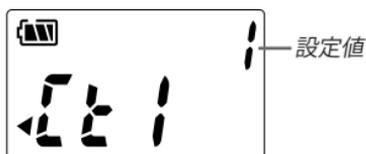
- ◆ 中継器アクセスの動作開始時は、中継器アクセスが成功するまでコールトーンは送信されません。
- ◆ 「2nd」を設定しているときは、【PTT】ではなく【PF】/【OPT】を押してもコールトーンを送信することができます。《▶ p.58》
- ◆ キーロックが動作しているときもコールトーンを送信することができます。

コールトーン1/コールトーン2音色設定

コールトーン1および2として送出する音色を変更できます。

- 1 基本メニュー設定画面で、「Ct1」または「Ct2」を選択する
- 2 コールトーン音色を選択して【決定】を押す

1～6	コールトーン6種類
7～10	メロディートーン4種類



スケルチレベル

スケルチは、信号のないチャンネルを受信したときの雑音をなくす機能です。スケルチレベルを下げると弱い電波でも受信しやすくなりますが、“ザー”という雑音が多くなります。スケルチレベルを上げると雑音は少なくなります。強い電波しか受信しなくなります。

- 1 基本メニュー設定画面で、「Sql」を選択する
- 2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	常に受信状態になります。
1/2/3	数値を下げると、弱い信号でも受信状態になります。数値を上げると、強い信号のみ受信状態になります。



- ◆ グループ番号を設定している場合は、「スケルチレベル」が「oFF」に設定されていても、グループ番号が一致する信号を受信しなければ、受信状態になりません。

バッテリーセーブ

電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。

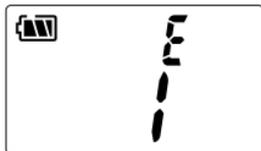
1 基本メニュー設定画面で、「SAV」を選択する



2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	バッテリーセーブ機能は動作しません。
on	待ち受け状態で約5秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。
ECo	待ち受け状態で約2秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。 表示部に「E」が点灯します。 バッテリーセーブ機能を「ECo」に設定すると、下記の動作になります。 ● バックライトは点灯しません。 ● ビープ音は鳴りません。

- 「ECo」に設定すると、チャンネル番号の上に「E」と表示されます。



- ◆ バッテリーセーブ「on」または「ECo」設定時は、消費電力を抑える動作を繰り返しているため、受信やVOX動作時の音声の始めが途切れる場合があります。音声の途切れが気になる場合は、「oFF」に設定してご使用ください。<関連設定：送信お知らせ音（p.47）>
- ◆ オートチャンネルセレクト、セカンドPTTチャンネルスキャン中、簡易スキャン中もバッテリーセーブは動作しますが、チャンネルが頻繁に切り替わるため、これらの機能を使用していないときよりも、電池の使用可能時間は短くなります。



- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、＜受信アイコン＞が点滅することがあります。

チャンネル非表示

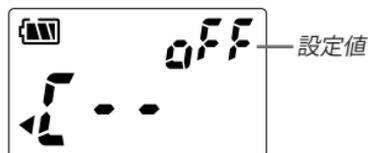
チャンネル番号やグループ番号を表示させない設定です。

- この機能を「on」または「LoC」に設定している場合は、チャンネルを切り替えると、切り替えたチャンネルを2秒間表示します。電源を入れたときも現在のチャンネルを2秒間表示します。

1 基本メニュー設定画面で、「C--」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	チャンネルやグループ番号を表示します。
on	チャンネルやグループ番号は表示しません。
LoC	キーロック時にチャンネルやグループ番号を表示しません。《「キーロック」▶ p.21》



- ◆ チャンネル非表示機能を「on」、「LoC」に設定すると、＜中継＞、＜L＞（ローパワー送信）も点灯しません。

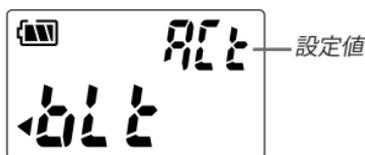
操作のしかた

バックライト動作

表示部照明の点灯条件を設定します。

- 1 基本メニュー設定画面で、「bLt」を選択する
- 2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	バックライトは常に消灯します。
ACt	【PTT】/【OPT】以外のキーを操作したときにバックライトが5秒間点灯します。
Any	【OPT】以外のキーを操作したときや信号を送信/受信するとバックライトが5秒間点灯します。
on	バックライトが常に点灯します。



通話告知音

通話告知音は、ビープ音による「通話開始告知音」と「終話告知音」があります。

通話開始告知音

【PTT】/【2nd】を押して送信したときに、通話が可能な状態になったことを送信者に音で知らせる機能です。通話の頭切れを防ぐために使用します。また、受信者がバッテリーセーブ機能を使用していると、受信するまでの時間が掛かることがあるため、送信者が音声通話開始タイミングを調整します。「通話開始告知音」は、「送信お知らせ音」が設定された場合は機能しません。

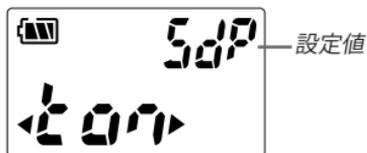
終話告知音

送信者が【PTT】/【2nd】を離して送信を終了したことを、受信者に音で知らせる機能です。受信者は、送信者が送信を終了したことが音でわかるため、返事をするタイミングがつかみやすくなります。

通話告知音

- 1 基本メニュー設定画面で、「ton」を選択する
- 2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	通話告知音は出力しません。
SdP	中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で運用時に通話告知音を出力します。
ALL	交互通話モード(シンプレックス)/中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で運用時に通話告知音を出力します。



通話告知音動作

通話告知音の出力動作を設定します。

- 1 基本メニュー設定画面で、「ton」を選択する
- 2 設定値「Sdp」または「ALL」を選択して【決定】を押す
通話告知音動作の設定画面が表示されます。
- 3 設定値を選択して【決定】を押す

P-	通話開始告知音が出力されます。
-R	終話告知音が出力されます。
P-R	通話開始告知音 / 終話告知音を出力します。



操作のしかた

イヤホンモード

モノラルイヤホンを接続して本機の【PTT】を使用する場合は、イヤホンモードを「on」にしてください。（モノラルイヤホンは弊社推奨製品を使用してください。）

1 基本メニュー設定画面で、「EAR」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	専用オプションのイヤホンマイクロホンやヘッドセット、スピーカーマイクロホンを使用するときに設定します。
on	推奨モノラルイヤホンを使用する設定です。



- イヤホンモードが「on」のときはが表示されます。



- ◆ 専用オプションや推奨モノラルイヤホン以外のプラグを挿入すると無線機、およびイヤホンを破損する場合がありますのでおやめください。
- ◆ 専用オプション以外を接続している場合は端子部の防水性能を維持できません。
- ◆ 推奨モノラルイヤホンについては、弊社ウェブサイトをご覧ください。

拡張メニュー（ファンクション）

拡張メニューは、基本メニュー以外の多様な機能の設定をします。
拡張メニューは下記のカテゴリーに分かれています。

設定項目一覧(拡張メニュー)

表示	カテゴリー	内容
FnC	ファンクションメニュー	トランシーバー本体の拡張機能の設定をします。
KEy	キーメニュー	トランシーバー本体の【PF】キー、およびオプションの【PF】キーに割り当てる機能を設定するメニューです。

ファンクションメニュー(FnC)の操作

- 一度電源を切る
- 【▲】と【決定】を押しながら電源を入れる
拡張メニューのカテゴリー選択画面が表示されます。
- 【▲】または【▼】を押してファンクションメニューを選択する
押すごとにカテゴリー（ファンクションメニュー/キーメニュー）が切り替わります。

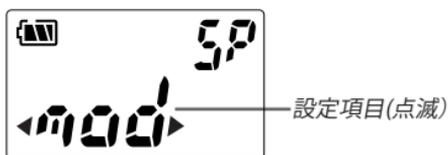


ファンクションメニュー



キーメニュー

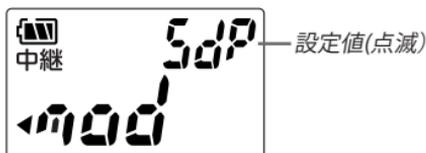
- 【決定】を押す
選んだカテゴリーのメニューモードに入り、設定項目が点滅します。
- 【▲】または【▼】を押して、設定項目を選択する



6 【決定】を押す

設定変更画面になり、設定値が点滅します。

7 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する



8 【決定】を押す

設定値を確定して設定項目選択画面に戻ります。

9 【PTT】を押す

設定を確定してファンクションメニューが終了します。

設定項目一覧：ファンクションメニュー(FnC)

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
mod	運用モード	SP/SdP	SP	39
bAt	バッテリー種別	ALb/RCb	ALb	41
APo	オートパワーオフ	oFF/on	oFF	42
ACS	オートチャンネルセレクトキー(本機)	oFF/on	oFF	43
t-l	送信禁止	oFF/on	oFF	44
LoC	キーロック長押し時間	1/2/3/4/5	1	45

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
tPw	送信パワー	L/H	H	45
hCh	チャンネル番号 切り替え	oFF/on	oFF	46
P-t	送信お知らせ音	oFF/1/2/3/4/5	oFF	47
Pdy * ¹	送信お知らせ音 遅延時間	oFF/SHt/mld/ LnG	mld	48
ESC *	簡易スキャン	oFF/on	oFF	49
ES1 * ²	簡易チャンネル 1	oFF/1 ~ 20 /1 ~ 27(中継器)	oFF	49
ES2 * ²	簡易チャンネル 2	oFF/1 ~ 20 /1 ~ 27(中継器)	oFF	49
ES3 * ²	簡易チャンネル 3	oFF/1 ~ 20 /1 ~ 27(中継器)	oFF	49

* UBZ-M51LE/M51SEのみ



- ◆ 1「P-t」が「oFF」の場合、「Pdy」は選択できません。
- ◆ 2「ESC」が「oFF」の場合、「ESC1」～「ESC3」は選択できません。

運用モードの設定

通信方法により運用モードを設定してください。

交互通話モード(シンプレックス)

中継器を介さずに直接トランシーバー同士で通信するモードです。

- 交互通話モード(シンプレックス)での通信操作は《「基本通信操作」
p.19》をご覧ください。

中継器アクセスモード(セミデュプレックス)

中継器を介して通信するモードです。

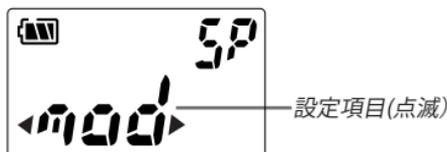
本体操作で設定する

1 【戻る】と【PTT】を押しながら電源を入れる

操作のしかた

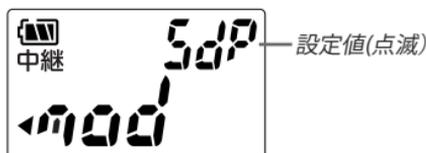
メニュー操作で設定する

- 1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「mod」を選択する



- 2 運用モードを選択して【決定】を押す

SP	交互通話モード(シンプレックス)で通信します。
SdP	中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で通信します。



- 「SdP」に設定すると、<中継>が表示されます。

中継器アクセスモード(セミデュプレックス)

最初に中継器に接続してから、相手を呼び出して通信します。

- 双方のチャンネルとグループ番号を中継器のチャンネルとグループ番号に合わせておきます。

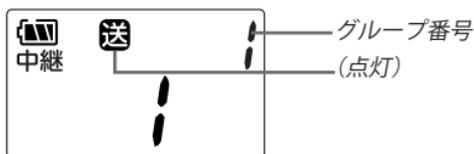
- 1 【PTT】を押し続ける

中継器アクセスを確認します。

- アクセス音が鳴ったら【PTT】を押したままで、手順2へ移ってください。
- レピーターアクセスエラー音(プップッ…)が鳴ったら手順1の操作を繰り返します。

- 2 【PTT】を押しながら話す

<送信アイコン>が点灯し、送信状態になります。



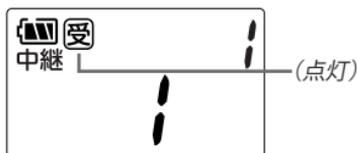
マイク部から口を5cm くらい離してお話してください。

- アクセスが外れたら、再度手順1から操作してください。

3 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると<受信アイコン>が点灯します。



4 【電源/音量】つまみを回して好みの音量に調整する

手順2と3の操作を繰り返して、通話します。



- ◆ アクセス音は、「通話告知音」(p.34)および「送信お知らせ音」(p.47)の内容により異なります。「通話告知音」が「OFF」以外に設定されている場合は通話告知音が鳴り、「OFF」の場合アクセス音は鳴りません。また送信お知らせ音が設定されているときは、送信お知らせ音が鳴ります。

バッテリー種別

使用する電池の種類を設定します。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「bAt」を選択する



操作のしかた

2 設定値を選択して【決定】を押す

ALb	アルカリ乾電池を使用するとき。
RCb	充電電池 UPB-7N または eneloop や充電式 EVOLTA を使用するとき。



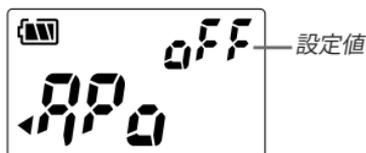
- ◆ 設定値を選択するときは、使用する電池の種類に合った設定をしてください。誤った設定にすると、電池の残量表示が正しく表示されません。

オートパワーオフ

操作の無い状態が2時間続くと、自動で電源が切れて電池の消耗を防ぎます。

電源が切れる1分前に警告音と表示の点滅が始まります

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「APo」を選択する



2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	オートパワーオフ機能は動作しません。
on	オートパワーオフ機能が動作します。



- ◆ オートパワーオフは下記の動作中では機能しません。
- オートチャンネルセレクト中
 - セカンドPTTチャンネルスキャン中 / 簡易スキャン中

UBZ-M51LE/M51SEのみ

オートチャンネルセレクト

交互通話モード(シンプレックス)での運用時に使用できる機能です。自動的にチャンネル内をスキャンして、グループ番号が一致したチャンネルを見つけるとそこで停止して受信する機能です。スキャン中に【PTT】を押して送信すると、同じグループ番号の空いているチャンネルが設定され送信します。

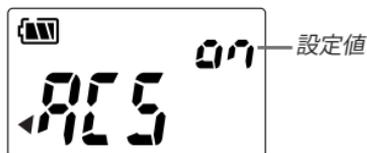
オートチャンネルセレクトキー

この機能を「on」に設定すると、本機の【▲】を1秒以上押すとオートチャンネルセレクトが動作します。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「ACS」を選択する

2 「on」を選択して【決定】を押す

oFF	本機の【▲】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。
on	本機の【▲】でオートチャンネルセレクトが動作します。



オートチャンネルセレクトを使う

オートチャンネルセレクトを使用する前に下記の設定を確認します。

- 本体の【▲】キー以外を使用する場合は、《「キーマニュー (KEy)」
▶ p.51, p.52》であらかじめオートチャンネルセレクト「ACS」をトランシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクホンの【OPT】キーに設定しておきます。
- グループ番号設定：1～38《「GRP」▶ p.22》

1 本機の【▲】を1秒以上押す

または「ACS」を設定した【PF】/【OPT】を1秒以上押します。
「ACS」と表示され、スキャンを開始します。



2 【PTT】を2～3秒押し続ける

空いているチャンネルで10秒ほど停止します。停止中に【PTT】を押したまま通常よりゆっくり呼びかけます。呼びかけが終わったら【PTT】から指を離し、相手はそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。

3 <受信アイコン>が消えてから、【PTT】を押して応答する



- ◆ 運用モードの設定《「mod」▶ p.39》が「SdP」のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。
- ◆ グループ番号が「oFF」のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。
- ◆ 10秒以内に応答してください。10秒以上送信・受信がないと、スキャンを再開します。
- ◆ オートチャンネルセレクト中にモニター機能《▶ p.54》をONにすると、スキャンが一時停止してチャンネルをモニターできます。

オートチャンネルセレクトを解除する

1 【▲】、【▼】、【決定】のいずれかを押す

または「ACS」を設定した【PF】/【OPT】を1秒以上押します。表示しているチャンネルで待ち受け状態になります。

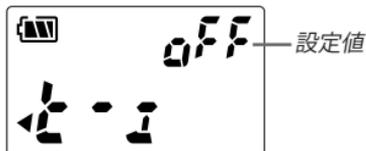
送信禁止

すべての送信を禁止する機能です。ただし、エマージェンシー操作は機能します《▶ p.56》。トランシーバーを受信専用で使用するときなどに設定します。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「t-1」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	送信動作を許可します。
on	送信動作を禁止します。



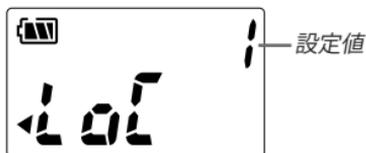
キーロック長押し時間

【決定】を押してキーロックが作動 / 解除するまでの時間を設定できます。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「LoC」を選択する

2 長押し時間を選択して【決定】を押す

1 ~ 5	1 秒 ~ 5 秒
-------	-----------



送信パワー

中継器アクセスモード(セミデュプレックス)の1ch ~ 18ch では、送信出力を下げて連続送信することができます。「L」に設定すると送信がローパワーの約 1 mW になり、「H」に設定にすると送信がハイパワーの約 10 mW になります。

- 運用モードの設定(「mod」▶ p.39)を「SdP」に設定しておきます。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「tPw」を選択する

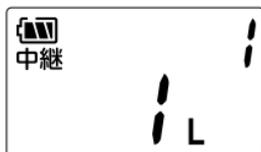
操作のしかた

2 設定値を選択して【決定】を押す

L	送信出力を約 1 mW にします。
H	送信出力を約 10 mW にします。



- 「L」に設定すると、チャンネル番号の右に「L」と表示されます。



- ◆ 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)の19～27 chや、交互通話モード(シングルレックス)では送信出力を下げることはできません。

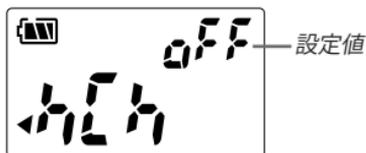
チャンネル番号切り替え

チャンネルの表示方法を連番表示ではなく、弊社従来機の表示にしたい場合に変更します。

- 1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「hCh」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

off	チャンネル番号を連番で表示します。 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 20 ch 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 27 ch
on	弊社従来機のチャンネル番号で表示します。 《☛ p.10》 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 11, h1 ~ h9 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 18, h1 ~ h9



送信お知らせ音

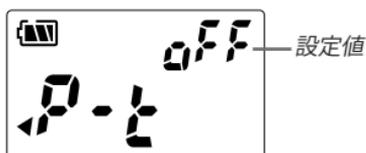
設定したビーブ音を送信開始時に相手に送ることができる機能です。ビーブ音の種類を相手に伝えておけば、誰からの通話かいち早く気付いてもらえます。

また通話開始告知音と同じように、送信者は通話が可能となったことを知ることができます。

1 ファンクションメニュー(FnC)設定画面で、「P-t」を選択する

2 設定値を選択して【決定】を押す

off	「通話開始告知音」《☛ p.34》が鳴ります。
1 ~ 5	送信お知らせ音 1 ~ 送信お知らせ音 5。



操作のしかた

送信お知らせ音遅延時間

頭切れ防止のため「送信お知らせ音」を出力するまでの時間を変更できます。「送信お知らせ音」が「oFF」以外のときに設定できます。

- 1 ファンクションメニュー(FnC)の設定画面で、「P-t」を選択する
- 2 設定値「1」から「5」を選択して【決定】を押す
送信お知らせ音遅延時間の設定画面が表示されます。
- 3 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	送信お知らせ音は遅延しません。
SHt	送信お知らせ音が少し遅延します。
mld	送信お知らせ音が中程度遅延します。
LnG	送信お知らせ音が大きく遅延します。



簡易スキャン (UBZ-M51LE/M51SEのみ)

メインで待ち受けしているチャンネルとは別に設定された、最大3つのチャンネルの受信状況を自動的に確認する(スキャン動作をおこなう)機能です。

簡易チャンネルの設定

1 ファンクションメニュー(FnC)の設定画面で、「ESC」を選択する

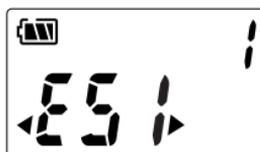
2 「on」を選択して【決定】を押す
簡易チャンネルの設定画面が表示されます。



oFF	本機の【▼】で簡易スキャンは動作しません。
on	本機の【▼】で簡易スキャンが動作します。

3 ESC1～ESC3を選択し【決定】を押す

4 ESC1～ESC3に割り当てるチャンネル番号を選び、【決定】を押す



設定範囲：oFF/1～20 ch(交互通話),1～27ch(中継機アクセス)

5 手順3と4を繰り返し、簡易スキャンのチャンネルを設定する

最大3つのチャンネルを設定できます。

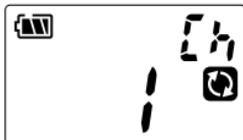
操作のしかた

簡易スキャンを開始する

- 《「キーマニュー (KEy)」← p.51, p.52》であらかじめ簡易スキャン「ESC」をトランシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクロホンの【OPT】キーに設定しておきます。

1 本機の【▼】を1秒以上押す

または「ESC」を設定した【PF】/【OPT】を押し続ける



<  > が表示され、簡易スキャンを開始します。

2 【PTT】を押す

簡易スキャンに設定したチャンネルでの送信を開始します。
簡易チャンネルでの受信終了後、2秒以内に押すと簡易チャンネルで送信を開始します。

<  > が点滅します。

簡易スキャンを解除する

1 【▲】、【▼】、【決定】のいずれかを押す

または「ESC」を設定した【PF】/【OPT】を1秒以上押します。簡易スキャンを停止します。



- ◆ 簡易スキャンは「基本メニュー」の「スケルチレベル」が「oFF」のままでは機能しません。「1」～「3」に設定してください。《← p.31》。
 - ◆ 簡易チャンネルのグループ番号設定は、メインチャンネルの設定と同様になります。
-

拡張メニュー(キー)

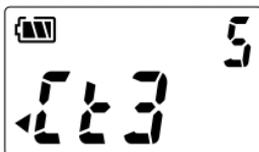
キーマニュー(KEy):本体PFキーの設定操作

本体 PF キー設定は、トランシーバー本体の【PF】キーに機能を設定します。

- 1 キーマニュー(KEy)の設定項目選択画面にする
 ≪「ファンクションメニュー(FnC)の操作」▶ p.37 ≫手順3でキーマニューを選択します。
- 2 【決定】を押す
- 3 【▲】または【▼】を押して、PFキー設定画面にする



- 4 【決定】を押す
 設定変更画面になり、設定値が点滅します。
- 5 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する
 例) Ct3(コールトーン3送信)を選択する。
- 6 【決定】を押す
 設定変更画面になり、設定値が点滅します。



- 7 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する
- 8 【決定】を押す
 設定値を確定して設定項目選択画面に戻ります。
- 9 【PTT】を押す
 拡張メニューが終了します。

キーマニュー(KEy):オプションキーの設定操作

【OPT】は、オプションマイクの【PF】キーに機能を設定します。

- 1 キーマニュー(KEy)の設定項目選択画面にする
《「ファンクションメニュー (FnC) の操作」▶ p.37》手順3でキーマニューを選択します。

- 2 【決定】を押す

- 3 【▲】または【▼】を押して、オプションキー設定画面にする



- 4 【決定】を押す
設定変更画面になり、設定値が点滅します。

- 5 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する
例) Ct3(コールトーン3送信)を選択する。

- 6 【決定】を押す
設定変更画面になり、設定値が点滅します。



- 7 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

- 8 【決定】を押す
設定値を確定して設定項目選択画面に戻ります。

- 9 【PTT】を押す
拡張メニューが終了します。

設定項目一覧: キーメニュー (KEY)

トランシーバー本体の【PF】キーとオプションの【PF】キー (【OPT】) 共通に設定できる機能です。

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
PF ¹	本体 PF キー設定	oFF/mon/	Att	43
		ACS/Att/Ct3/		49
		EmG/2nd/ESC		51
oPt ¹	オプションキー設定	oFF/mon/	oFF	43
		ACS/Att/Ct3/		49
		EmG/2nd/ESC		52
Ct3 ²	コールトーン 3 音色	1/2/3/4/5/6/7/8 /9/10	5	55
bGt ^{*3}	バックグラウンド トーン	oFF/on	on	57
Ch [*]	セカンド PTT チャンネル	1 ~ 20 (交 互 通 話)	1	58
		1 ~ 27 (中 継 器 ア ク セ ス)		
GRP [*]	セカンド PTT グループ	oFF/1 ~ 38	oFF	58
2bP [*]	セカンド PTT ビープ音	oFF/on	on	59
SEC [*]	セカンド PTT スキャン再開時間	2/5/10	2	60

操作のしかた

* UBZ-M51LE/M51SEのみ



- ◆ 1「EmG」「2nd」「ESC」は、UBZ-M51LE/M51SE のみ選択できません。
- ◆ 2 本体 PF キー設定、またはオプションキー設定が「Ct3」の場合に選択できます。
- ◆ 3 本体 PF キー設定、またはオプションキー設定が「EmG」の場合に選択できます。

操作のしかた



- ◆ オプションキー設定は、お買い上げ時「oFF」になっています。【OPT】キー対応のオプションマイクをご使用の場合、設定を「oFF」以外に変更してください。お買い上げ時の設定のままではオプションマイクの【OPT】キーは動作しません。

モニター

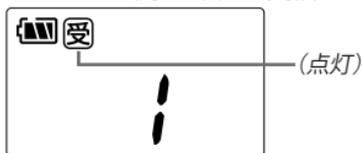
電波が弱いときにスケルチ(雑音消去回路)を強制的に開き、信号の状態を一時的にモニターすることができます。また、音量を調整するときにも使用できます。

本体操作でモニターする

1 一度電源を切る

2 【▼】を押しながら電源を入れる

スケルチが開いて、<受信アイコン>が点灯します。



- 信号を受信していないときは“ザー”という雑音が出ます。音量レベルを調整するときのめやすにもできます。

モニターを解除するには、電源を入れ直します。スケルチが閉じて<受信アイコン>が消灯します。

キー操作でモニターする

- 《「キーメニュー (KEy)」▶ p.51, p.52》であらかじめモニター操作「mon」をトランシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクロホンの【OPT】キーに設定しておきます。

1 「mon」を設定した【PF】または【OPT】キーを押す 押している間スケルチが開きます。

2 「mon」を設定した【PF】または【OPT】キーを離す モニターが解除されます。



- ◆ モニター機能を使用するときは、音量レベルに注意してください。特にイヤホンを使用しているときに、“ザー”というノイズを大きい音量で聞くと耳に障害を受けることがあります。

音量アッテネート

一時的にスピーカーの音量を下げることができます。

- 《「キーマニュー (KEy)」▶ p.51, p.52》であらかじめ音量アッテネート「Att」をトランスシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクロホンの【OPT】に設定しておきます。

1 「Att」を設定した【PF】/【OPT】を押す

スピーカーの音量が下がります。もう一度押すと元の音量に戻ります。



コールトーン3送信

- 《「キーマニュー (KEy)」▶ p.51, p.52》であらかじめコールトーン3音色「Ct3」をトランスシーバー本体の【PF】キーや、オプションマイクロホンの【OPT】キーに設定しておきます。

1 「Ct3」を設定した【PF】/【OPT】を押す

押している間コールトーン3が送信されます。

- 【PTT】を押したまま【PF】/【OPT】を押しても送信されます。

コールトーン3音色

コールトーン3として送出する音色を変更できます。

1 キーマニュー(KEy)設定画面で、「Ct3」を選択する

2 コールトーン音色を選択して【決定】を押す

1～6 コールトーン6種類

7～10 メロディートーン4種類



エマージェンシー操作 UBZ-M51LE/M51SEのみ

緊急時に「EmG」を設定したキーを押して、自分が緊急状態であることを通知する機能です。

エマージェンシー動作を開始する

- 《「キーマニュー (KEy)」 ▶ p.51, p.52 》であらかじめエマージェンシー「EmG」をトランシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクロホンの【OPT】に設定しておきます。

1 「EmG」を設定したキーを2秒以上押し続ける



エマージェンシートーンが鳴り、現在のチャンネルでエマージェンシー動作を開始します。エマージェンシー送信中は自動でマイク感度を上げて送信音声を大きくします。エマージェンシー動作中は、【電源 / 音量】、【PTT】以外のキーは動作しません。

下記のエマージェンシー動作を10回繰り返します。

1. エマージェンシートーンが鳴る (5 秒)
2. エマージェンシートーンを送信する (3 秒)
3. 音声を送信する (17 秒)
4. エマージェンシートーンが鳴る (5 秒)
5. 待ち受け (40 秒)

エマージェンシー動作を解除する

1 「EmG」を設定したキーを2秒以上押し続ける

エマージェンシー動作が解除されます。電源を OFF にしてもエマージェンシー動作は解除されます。

エマージェンシーを受信したら

送信している側のバックグラウンドトーンが「on」のときは送信者の音声と共にバックグラウンドトーンが鳴ります。

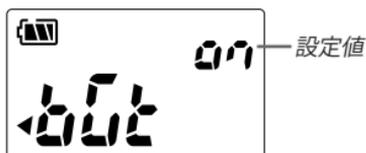
バックグラウンドトーン (UBZ-M51LE/M51SEのみ)

エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを付加して、エマージェンシー動作中であることを示す機能です。通常の送信とエマージェンシー送信を判別したいときに使用します。この機能を「on」(お買い上げ時の設定)にするとエマージェンシー送信時に1秒間隔で送信音声にバックグラウンドトーンを付加します。

1 キーメニュー(KEy)の設定画面で、「bGt」にする

2 設定値を選択して【決定】を押す

oFF	エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを付加しません。
on	エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを付加します。



セカンドPTTチャンネル送受信 UBZ-M51LE/M51SEのみ

メインで使用する通常の見出しチャンネルと、もうひとつのチャンネルを設定して待ち受け、送信することができます。

セカンド PTT チャンネルを設定すると、【PF】/【OPT】がセカンド PTT チャンネル専用の PTT キーに設定されます。

- 《「キーメニュー (KEy)」▶ p.51, p.52》であらかじめセカンドチャンネル「2nd」をトランシーバー本体の【PF】キーやリモコンマイクホンの【OPT】キーに設定しておきます。

セカンドPTTチャンネルの設定

セカンド PTT チャンネルを設定します。

1 キーメニュー (KEy) の設定画面で、「Ch」を選択する

2 チャンネルを選択する



チャンネル番号 (点滅)

設定範囲：1～20/1～27 (中継器)

3 【決定】を押してセカンドグループの設定へ進む

セカンドグループの設定

セカンドチャンネルでの通話時に、グループ番号を設定すると、混信のない快適な通話ができます。

4 セカンドグループの番号を選択する



グループ番号 (点滅)

設定範囲：off/1～38

5 【決定】を押してセカンドPTTビーブ音の設定へ進む

セカンドPTTビーブ音の設定

セカンドチャンネルでの送受信で、ビーブ音を鳴らさないようにします。

6 設定値を選択する



oFF ビープ音を出力しません。

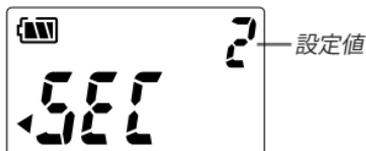
on ビープ音を出力します。

7 【決定】を押してセカンドPTT再開時間設定へ進む

セカンドPTT再開時間

セカンド PTT 停止からスキャン再開までの時間を設定します。

8 時間を選択する



2 停止から 2 秒後にスキャンを再開します。

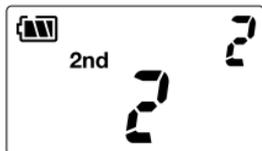
5 停止から 5 秒後にスキャンを再開します。

10 停止から 10 秒後にスキャンを再開します。

操作のしかた

セカンドPTTを開始する

セカンドチャンネルを設定すると同時に、自動的に通常を選択チャンネルとのスキャンを開始します。< 2nd >が点灯します。



セカンドチャンネル送信

1 【PF】を押す

セカンドチャンネルの設定内容が表示されます。

2 【PF】を長く押す

セカンドチャンネルで送信されます。

通常を選択チャンネルで送信する

1 【PTT】を押す

通常の本メインチャンネルで送信されます。セカンドチャンネル表示中、および送信中は機能しません。

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

KMC-55.....	スピーカーマイクロホン
EMC-15.....	イヤホン付きクリップマイクロホン< VOX 対応>
EMC-14.....	イヤホン付きクリップマイクロホン< VOX 対応>
EMC-13.....	イヤホン付きクリップマイクロホン< VOX 対応>
KHS-37.....	ヘッドセット< VOX 対応>
UBZ-RJ27.....	特定小電力中継器
UPB-7N.....	ニッケル水素充電電池
UBC-9CR.....	ツイン充電台
UBC-7SL.....	AC アダプター (充電台 1 台用)
UBC-8ML.....	AC アダプター (連結用<充電台最大 6 台>)
SB-4.....	ネックストラップ(セーフティ機構付き)



- ◆ PTT ホールド機能をオプションにて使用するときには、オプション一覧の< VOX 対応>のオプションを使用してください。< VOX 対応>以外のオプションを接続すると、PTT ホールドで送信しても音声は相手に聞こえません。
- ◆ 本機に使用できるオプションが追加されたり、生産が終了したりすることがあります。オプションについてはカタログなどをご覧ください。

その他

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。設定されている内容はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。《「リセット」》 p.65》

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
● 電源が入らない ● 表示がすぐ消える ● 表示が点滅して、 電源が切れない	電池の容量が低下 している	充電電池を充電する	--
		電池を交換する	14
● 受信できない ● 音量レベルを上げ ても音が出ない	グループ番号が違 う	グループ番号を相 手と同じにする	22
相手と通話できない	運用モードが違っ ている	相手と同じ運用 モードにする	39
	チャンネルかグ ループ番号が違う	チャンネル、グリー プ番号を相手と同 じに合わせる	19 22
	相手との距離が離 れすぎている	通話のできる距離 をめやすに通話す る	9
チャンネルが切り替 わらない	キーロックになっ ている	キーロックを解除 する	21
送信ができない	<受信アイコン> が点灯している	チャンネルを変更 するか、<受信ア イコン>が消える のを待つ	20
	送信禁止を「on」 に設定している	「off」に設定する	44

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	バックライト動作を「ACT」、「Any」または「OFF」に設定する	34
電池がすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	34
	バッテリーセーブを「OFF」に設定している	「on」または「ECO」に設定する	32
<ul style="list-style-type: none"> ● バックライトが点灯しない ● ビープ音が鳴らない 	バッテリーセーブを「ECO」に設定している	「OFF」または「on」に設定する	32
電池の残量表示が正しく表示されない	バッテリー種別が正しくない	使用する電池に合った設定にする	41
簡易スキャンが動作しない	簡易スキャンが「OFF」、または、簡易チャンネル1/2/3設定すべてが「OFF」に設定されている	簡易スキャンを「on」、簡易チャンネル1/2/3設定のいずれかを「OFF」以外に設定する	49
何も聞こえないのに受信アイコンが点灯する	グループ番号が設定された状態でスケルチを「OFF」に設定している	スケルチレベルを設定する	31

その他

症状	原因	処置	参照ページ
オートチャンネルセレクトが動作しない	送信・受信の両方が同じグループ番号に設定されていない	グループ番号を設定する	22
	運用モードが中継器アクセスモード(セミデュプレックス)「SdP」に設定している	交互通話モード(シンプレックス)「SP」に設定する	39

中継器を使用している場合

症状	原因	処置	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> ● 中継器にアクセスできない ● 中継器を設置したが、通話できる範囲が広がらない 	レピーターアクセスエラー音が鳴らない	中継器アクセスモード(セミデュプレックス)「SdP」に設定する	39
	運用モードが中継器アクセスモード(セミデュプレックス)「SdP」に設定されていない		
中継器にアクセスできない	レピーターアクセスエラー音が鳴る	チャンネル番号、グループ番号を中継器の番号と合わせる	19
	● チャンネル番号、グループ番号が中継器の番号と違う		22
	● 中継器との距離が離れすぎている	通話のできる距離をめやすに通話する	9

リセット

リセットすると、設定されている内容はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

1 一度電源を切る

2 【▲】と【▼】を押しながら電源を入れる

表示が全点灯します。



3 【▲】、【▼】のいずれかのキーを離す

確認画面が表示されます。



4 【決定】を押す

設定がリセットされて初期値に戻り、待ち受け状態になります。



- 【決定】以外のキーを押した場合は、リセットしないで待ち受け状態になります。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

保証書 (別添)

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より **1 年間** です。

修理を依頼されるときは

「故障かな? と思ったら」(p.62) を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合、設定された項目がリセットされる場合がありますので、別途お客様ご自身でお控えくださいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因 (衝撃や水分、異物の混入など) による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店または JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後最大 6 年程度対応できるよう努めておりますが、部品メーカーの部品廃止などにより修理の可否が変化することがあります。製造打ち切り後の修理の可否に関しては JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。

(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

修理料金の仕組み (有料修理の場合は下記の料金が必要です。)

技術料：製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業に掛かる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。

部品代：修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。

送料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などをおこなうにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

チャンネル数	47 ch
● 交互通話モード (シンプレックス) :	20 ch
● 中継器アクセスモード (セミデュプレックス) :	27 ch
使用周波数帯	400 MHz 帯
送信出力	10 mW/1 mW * ¹
電波型式	F3E
低周波出力	50 mW 以上 (8 Ω 負荷、10 % 歪)
電源電圧	DC 1.5 V
使用温度範囲	- 10 °C ~ + 50 °C
外形寸法 (突起物含まず)	幅 47 x 高さ 79.9 x 奥行 22 mm
本体質量 (重さ) * ²	
● UBZ-M51LE :	約 120 g
● UBZ-M51SE :	約 110 g
● UBZ-M31E :	約 110 g

*¹ 中継器アクセスモード (セミデュプレックス) で 1 ch ~ 18 ch 設定時のみ有効

*² アルカリ乾電池含む・ペルトフックなし

※仕様は予告なく変更することがあります。

JVCケンウッドカスタマーサポートセンター

固定電話からは、フリーダイヤル

 0120-2727-87

携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル

 0570-010-114

一部のIP電話など、フリーダイヤル、ナビダイヤルがご利用になれない場合は

045-450-8950

FAXを送信される場合は

045-450-2308

住所 〒221-0022

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

受付日 月曜日～土曜日（祝祭日および、弊社休日を除く）

受付時間 月～金曜日 9：30～18：00

土曜日 9：30～12：00、13：00～17：30

株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
- 修理などアフターサービスについては、弊社ウェブサイトをご覧ください。JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

URL <https://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>

- ユーザー登録(My-Kenwood)をご利用ください。

お買い上げいただいたケンウッド製品をご愛用いただくために、弊社ウェブサイト内でユーザー登録することをおすすめします。

URL <http://jp.my-kenwood.com>